

玉川教会たより

日本基督教団玉川教会

町田市玉川学園 4-5-23

電話 042-732-9231

巻頭言「わたしたちこそ神の家」

聖書 ヘブライ人への手紙3章1-6節

岩田昌路牧師



主なる神の慈しみと憐みによって、新しき2018年を共に迎えることがゆるされました。玉川教会につらなるすべての皆様に、主の祝福が豊かにありますようお祈りをいたします。

昨年9月より玉川教会は主任牧師不在となり、私は代務者として礼拝説教や役員会の奉仕をさせて頂くようになりました。教会の皆様は、何かとさまざまな困難を経験しておられるとは思いますが、私自身は、玉川教会の軽やかな雰囲気、信徒の皆様の御言葉に聴く姿勢、役員会の活発な話し合いに、いつも励まされております。玉川教会という素晴らしい教会に、このようなかたちで、かかわる機会が与えられたことを、主に心から感謝しております。

さて、新約聖書のヘブライ人への手紙3章1-6節の御言葉に導かれて、新年のメッセージをいたします。

「だから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち、わたしたちが公に言い表している使者であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。」(3章1節)

「イエスのことを考えなさい。」とは、「イエスをよく見つめなさい」という意味の言葉です。目に見ることのできない主イエスを信仰の思いをもって仰ぎ見なさい。そのように勧められています。私たちの思いやまなざしはどうでしょうか。人生にはさまざまな悩みや労苦があります。しばしばその重圧に押しつぶされ、うつむかざるを得なくなることがあります。そこで私たちが陥るのは、主イエスを見つめることから離れてしまうことです。それは悩みや労苦に支配される時だけのことではありません。楽しく順調に過ごしている日々にも傲慢に陥り、主イエスを見失ってしまうことがあるものです。それは、生ける神から離れ、罪に陥り頑なな心になるという現実です。

「イエスのことを考えなさい。」という勧めは、信仰者各自にというよりも、兄弟姉妹と呼び得る教会の交わりに向けられています。生ける神から引き離すあらゆる力との戦いは、信仰者各自の戦いであると同時に教会の戦いでもあります。私たちは頑なな心に支配されないように、お互いの弱さを覚えつつ、日々祈り合い、励まし合うのです。教会はそのような意味で、主イエスを真実に仰ぎ見る共同体なのです。

ヘブライ人への手紙の勧めに導かれて、私たちはくっきりと浮かび上がってくる主イエスのお姿を見つめることができるようになります。憐れみ深い忠実な大祭司としてのお姿です。主イエスは、民の罪を償うために、私たちと同じ肉体をまとう人間となられて、ご自身を傷のない完全なものとして神のみ前に献げられました。それがあのゴルゴダの十字架の出来事です。

「キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを持ち続けるならば、わたしたちこそ神の家なのです。」（3章6節）

あの決定的な出来事に現された主の忠実さはいつまでも変わることがありません。主イエスは今も生きて働かれて、神の家である教会を治めておられます。私たちの不忠実に対しても、主イエスの忠実なご支配は変わることはありません。私たちはそこで確信と希望に満ちた誇りとに生きることができるのです。

「わたしたちこそ神の家なのです！」とは、何と喜びと慰めに満ちた宣言でしょうか。これは決して傲慢な心で聞き取れる言葉ではありません。不信仰にしか生き得ない私たちが主イエス・キリストが忠実に治めていて下さることを、感謝をもって謙遜に受けとめるところに光を放つみ言葉なのです。玉川教会の皆様も「わたしたちこそ神の家なのです！」と生き生きと告白することへ招かれているのです。

今年、4月から新たな牧師を迎える玉川教会のすべての歩みとわざが、主イエスを真実に仰ぎ見るところに整えられ、キリストの体なる教会に仕える者たちすべてが、確信と希望に満ちた誇りに生きることができるようになりますように！

